

六甲山地のはげ山の植生は 115 年間でどのように変化したか？ ～再度山永久植生保存区での 45 年間の植生モニタリング結果から～



自然・環境再生研究部 生物資源研究グループ

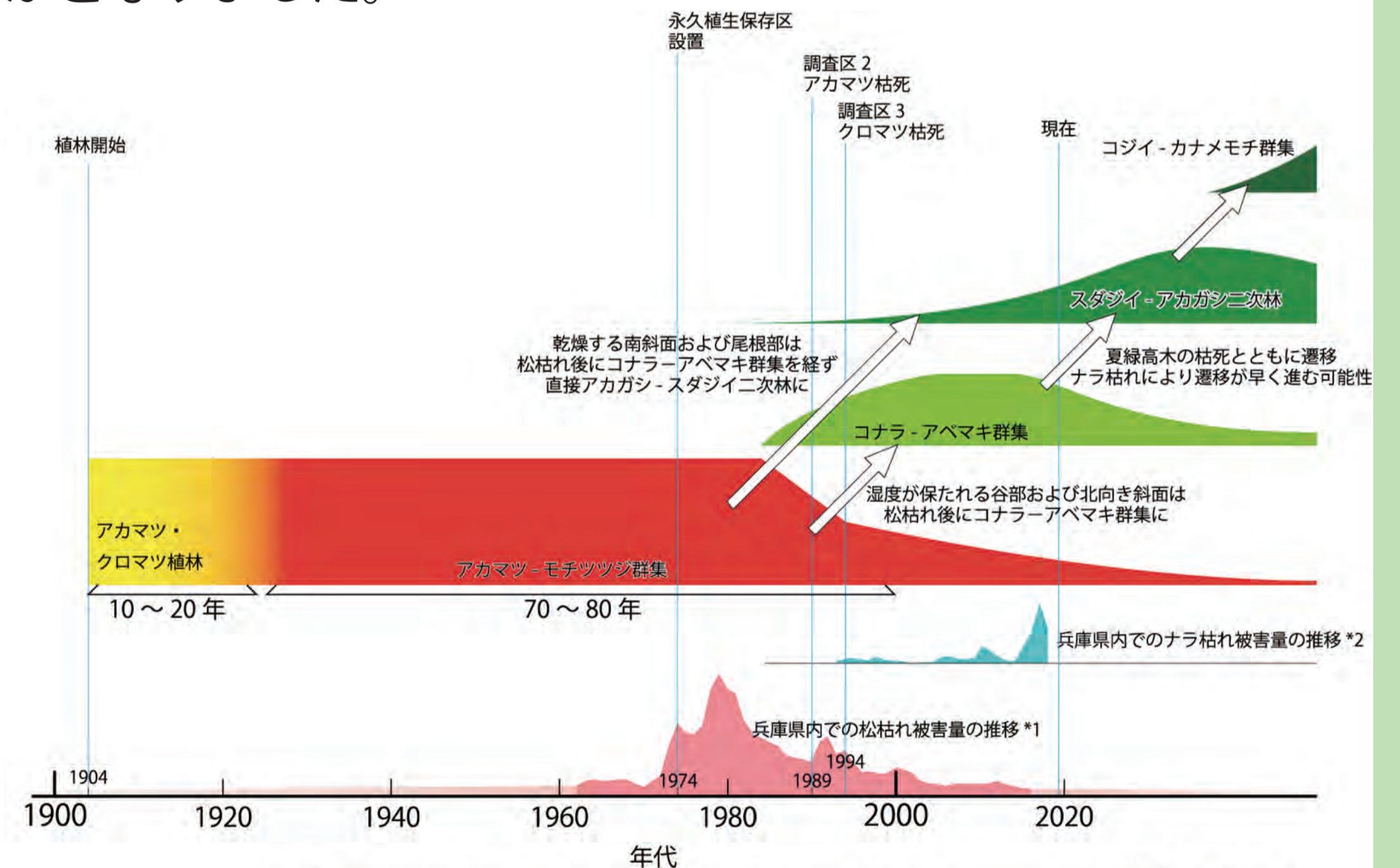
橋本佳延

古くより森林利用がなされてきた六甲山は、盗掘乱伐の結果、明治初期には**はげ山**となっていました。また、人口が急増した神戸の町では、安全な飲料水の確保と土砂災害の防止が重要な課題となっていました。これらを解決するために 1902 年から六甲山ではマツ（アカマツ・クロマツ）などが植林され、今では全山が豊かな森林となっています。

それでは、六甲山の植生は植林後にどのような変化をたどってきたのでしょうか？神戸市はマツなどの植林の来歴が明らかである再度山に永久植生保存区を設定し、1974 年から 5 年おきに調査しており、私も 1999 年より参加しています。これまでの調査で、再度山の植生は 1902 年の植林後 80-95 年間はマツ林として維持され、その後はマツ枯れによって①コナラ-アベマキ群集の遷移系列と、②スダジイ-アカガシ二次林の遷移系列をたどってきたことが分かりました。

第 10 回（2019 年）調査では、**①の遷移系列をたどるのは北向き斜面や谷筋の湿潤な立地のマツ林であ**

り、②の遷移系列をたどるのは南向き斜面や尾根筋の乾燥した立地のマツ林であること、コナラ-アベマキ群集もスダジイ-アカガシ二次林への遷移が始まっていることが明らかとなりました。



*1 兵庫県 HP 松林を松くい虫から守ろう https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk22/af17_00000007.html を元に作成。濃い色は実数。薄い色は著者による推定。
*2 兵庫県 HP カシノナガキクイムシによる「ナラ枯れ被害」について https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk22/af17_000000026.html

図 1 再度山周辺におけるマツ植林の植生遷移系列の模式図